



將校研修資料第一五六號

手榴彈仕掛ノ樹枝鹿砦ニ就テ

此ノ種資料ハ實ニ有效ナリ各隊ハ單ニ戰鬪詳報行動詳報等ヲ形式的ニ記スル報告ノミナラス凡ソ他人他隊ノ參考トナルコトハ念ヲ入レ簡明的確ニ此ノ報告ノ如クニ記述シテ提出スヘシ
一團ノ討伐ト雖國帑ト生命ヲ費スコト大ナルモアリ
之ヲ活用善用スルコトハ吾人將校ノ重要ナル御奉公ナリ業務多端ナルヘキモ之ヲ克服シテ実行スル様ニ

一、發見セル迄ノ狀況

昭和十四年一月九日午前六時第三中隊ハ自動貨車五輛ニ分乘シ十八家營ヲ出發シ鎮辺城ニ向ヒ前進ス

0612

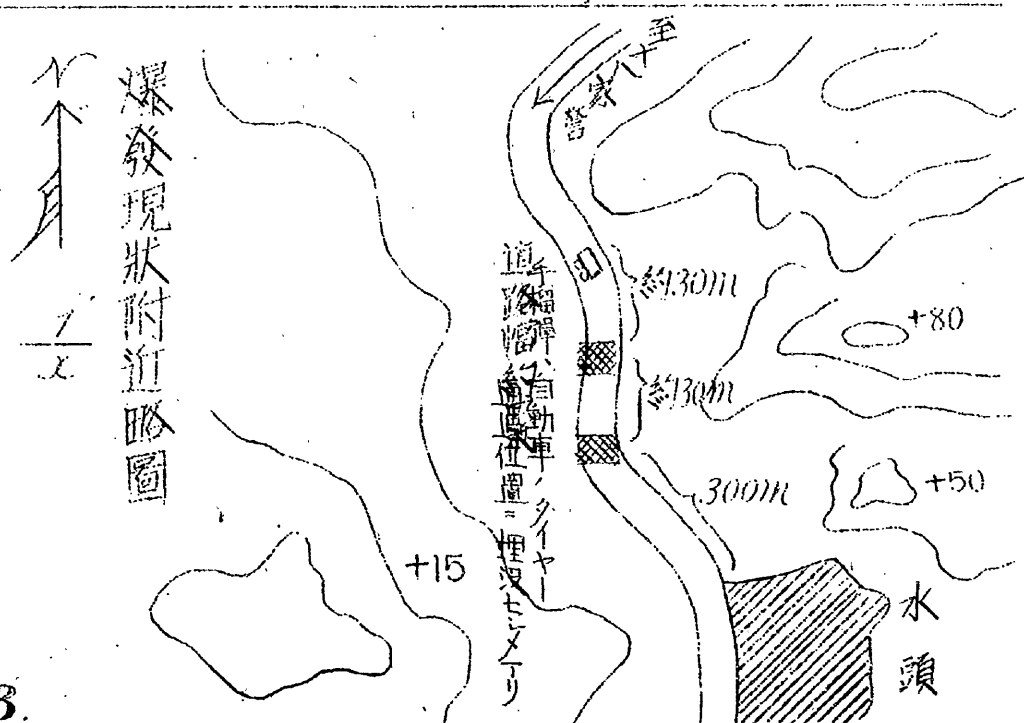
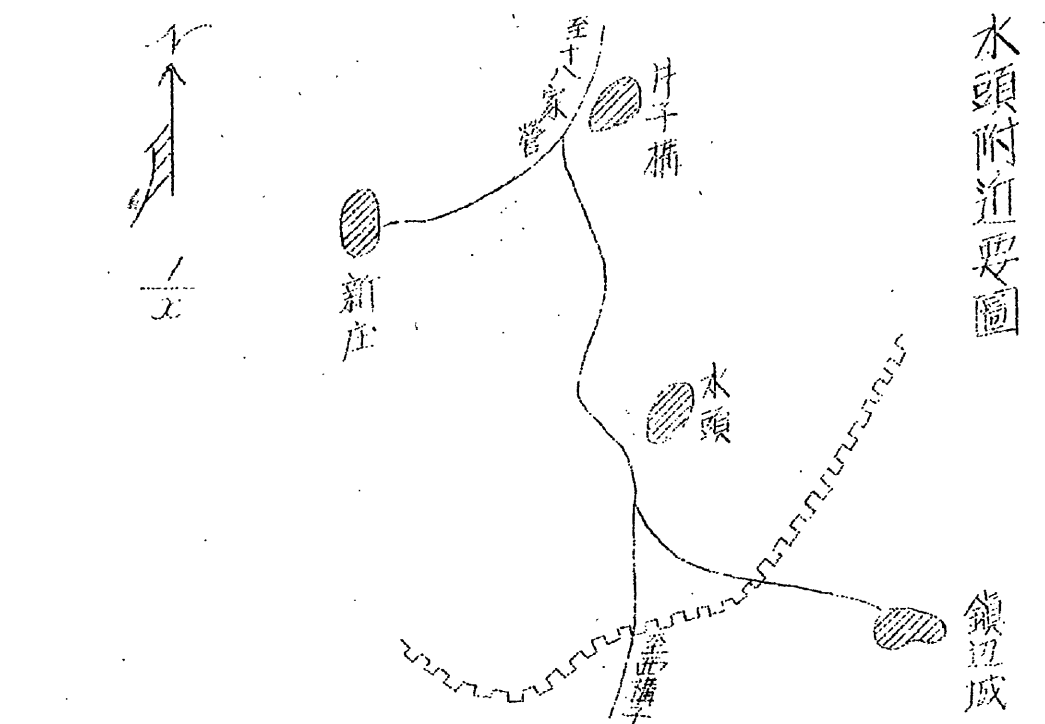
途中火兵車輛（大須賀小隊）故障ノ爲第三車輛（若尾小隊）

火兵トナル

無慮火運轉ノ爲行進意、如クナラサルモ井子構附近ヨリ東天
明ケ初メ午前七時三十分頃水頭北方約三百五十米ニ至リシニ前
方路上ニ障礙物アルヲ知ル

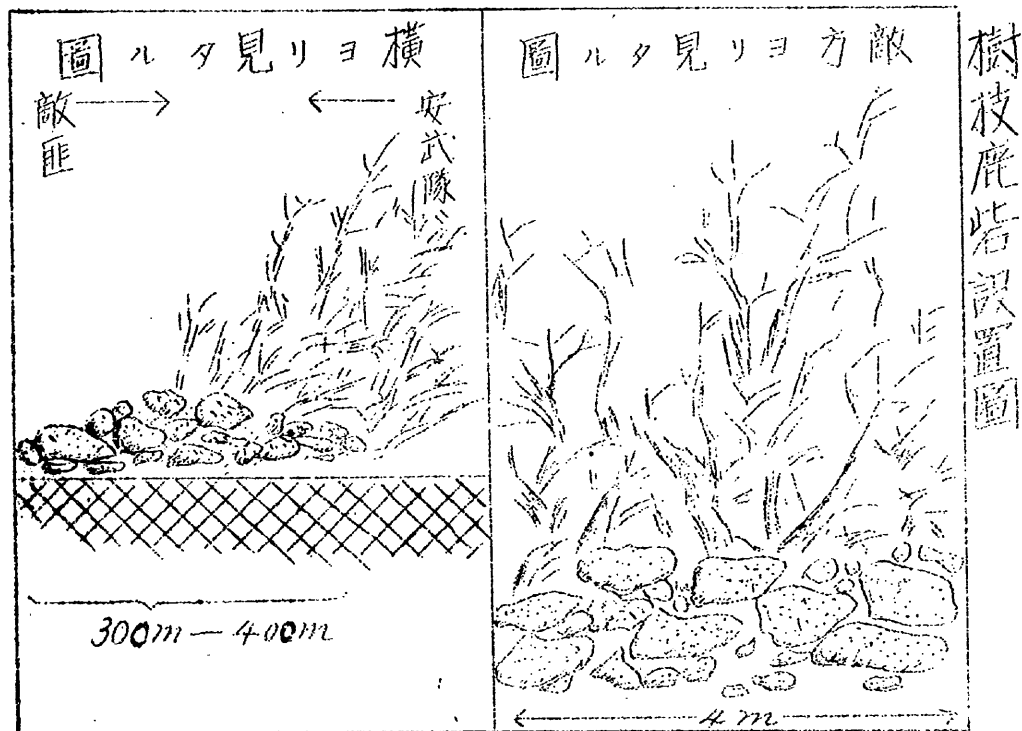
二、障礙物ノ狀態及其ノ附近ノ狀況左記要圖、如シ

0613



3.

0614



- 説明
- 一、第一鹿砦、石、種類
四方位、石、約 $\frac{1}{3}$
礫 約 $\frac{1}{3}$
砂 利 約 $\frac{1}{3}$
 - 二、第二鹿砦、石、種類
四方位、石、約 $\frac{2}{3}$
礫 約 $\frac{1}{6}$
砂 利 約 $\frac{1}{6}$
 - 三、樹枝、高さ、約一米

4.

0615

三、鹿砦ト道路及其附近ノ地形的關係

一、細部ハ要圖ニ示セル如クナルモ

二、鹿砦ハ道路幅約四米ヲ隅ヨリ隅迄全部閉塞シアリ

三、道路ノ兩側ハ徒歩兵ノ通過容易ナルモ歩兵砲ノ通過稍々困難ナリ

四、手榴彈ノ爆音ハ長城線（敵歩哨アリ）ニ聞ユルノ距離ニアリ

四、發見時ニ於ケル敵情判斷

一、敵ハ既ニ吾カ鎮辺城攻撃ヲ察知セリ

二、手榴彈裝置アリ?

三、自動車停止ト同時ニ兩側高地ヨリ一齊射撃ヲ受クルヤモ知レス

五、發見時ノ處置

一、自動車ヲ手前約三十米ニ於テ停止セシム

二、全員下車

3、若干名ヲ以テ四周ノ高地ヲ警戒セシム

4、第一分隊長上村伍長ニ鹿砦ヲ排除ヲ命ス
特ニ手榴彈ニ注意セシム

5、直ニ中隊長ニ報告

六、爆發瞬時及直後ノ處置

1、五六名ノ者ヲシテ先ツ石ヲ次ニ樹枝ヲ排除セシム

2、荒尾上等兵ノ「手榴彈」ノ聲ニ依リ一同後向トナリ退散ス

3、柘植上等兵負傷ス

4、江波戸軍醫直ニ手當ヲナス

5、手榴彈ノ位置ハ自動車ノタイヤヲ通過ノ位置ナリ

6、警戒ヲ益々嚴ニシテ尙前進

7、約三十米前進シテ第二ノ鹿砦ヲ發見

8、觸ルノ事ナク其ノ側方ヲ前進ス

七、所感（特ニ除去ニ照シテ）

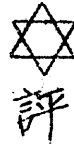
八、鹿砦ハ通常之ヲ隘路等ニ設クルナランモ 觸ルハ事ナク通過シ得
レハ之ニ増シタル事ナシ

九、爆彈仕掛ノ鹿砦ハ鹿砦其ノモノニヨリ 敵ノ前進ヲ阻止スルモノ
ニアラサレハ其ノ材料及構成眞ニ薄弱ニシテ排除容易ナル如ク
設置シアリ看破極メテ容易ナリ。

三、除去スルノ止ムナキ場合ハ兵各自携行セル捕縄等ニテ樹枝ヲ縛
リ遠方ヨリ一撃ニ引キ裝置彈ヲ爆發セシムルヲ可トス

四、繩類等無ク直接鹿砦ニ手ヲ觸レ排除スルノ止ムナキ場合ハ
小銃ノ人員ヲ以テ先ツ樹枝ノ根本ニ敷置シアル石（大ナルモノヨリ
逐次）ヲ排除シ行フヲ可トス

此ノ際作業手ト同数ノ監視者ヲ設ケ手榴彈ノ發見ニ任
スヘシ 監視者ハ絶對ニ作業セシメサルヲ要ス



評

5. 手榴彈既ニ發火セルヲ發見セハ發見セル監視者ハ「發火」ト警告シ一同ハ後同トナリ走り去ルヨリモ先ツ伏臥スルヲ要ス
6. 匪賊ノ使用シ居ル手榴彈ノ效力薄弱ナルヲ痛感セリ

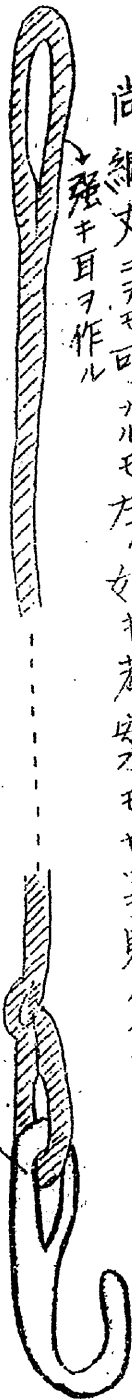
8.

一、之ハ手榴彈ヲ地雷的ニ使用シ鹿砦ト相候ツテ待チ伏セの戰闘ヲ行フツモリナリシヤモ計ラレス拂曉攻撃爲ニ其ノ手ヲ出シ得サリシナランカ
二、本説ノ如ク鹿砦中ニ手榴彈ヲ裝セルコトモナギニアラサルヘシ
三、各兵ニ捕縄ヲ有セシムルコトハ此ノ經驗ノ外屬ニ必要アリ末整備ノ隊ハ整備スヘク初年兵ニ其ノ用法ヲ教育スヘシ

尚綱夫ニテモ可ナルモ左ノ如キ考案モヤツテ見ルヘシ

強キ耳ヲ作ル

他端ニ強キ鋼鈎ヲ附スルモ一案ナルヘシ



0619



研究資料第一五七號

奇襲戰例分配ニ就テ

我國ノ昔話ニモ義経一ノ谷ノ奇襲、屋島ノ急襲、信長桶狭間ノ戰、山崎合戰天王山ノ奇襲、駿島ノ夜襲、其ノ他勝戰ノ多クノ例ハ勝者カ何カシテ敵ノ意表ニ出テ、其急所ヲ打チテ敗ツテ居ルノテアル敵ノ手ヲ檢知シテ其ノ裏カキノ技ヲ仕掛ケラレルトキハ無敵ノ横綱モ新進ニ勝ツ渡ス道理ナリ 匪賊ニ對シテハ特ニ其ノ骨ヲ吞込ミテ如何ナル場合ニ於テモ有邪無邪ニ敵ト合戰スルカ如キコトアラハ誠ニ相濟マヌ事ナリ必ラス何ト力敵ヲ致シテ戰果ヲ最大ナラシムルコトニ専念練磨セサルヘカラス

本戰例ハ我國ノ奇襲ノ例ヲ集メタルモノナルカ何レモ參考トスルニ足ル乍併斯クノ如キ戰術ハ將棋ニ何段トアル如ク究ムレハ究ムル程



0620

上ニ上カアルモノナリ諸官ハ一同ノ出動ニモ此ノ將タルノ最モ重要ナル戰術ノ能力ノ向上ヲ期スルト共ニ部下ノ訓練ヲ之ニ適スル如ク精練セサルヘカラス折角ノ企圖秘匿行動中ニ一、二ノ不心得者ノ爲ニ敵ニ過早ニ察知セラル、カ如キニ至リ或ハ夜間展開ノ時機ト位置トヲ誤リ連絡ヲ失シ甚シキハ事前準備ニ缺ケテ道ヲ迷ヒ方向ヲ誤ルカ如キ、又射撃軍紀ヲ紊リ又ハ指揮的確ナラサル爲ニ過早ニ號令ナク兵、分隊長勝手ニ射撃ヲ開始スルカ如キ、之ニ將校迄モ釣込マル、カ如キ失敗ノ例モ甚タ多シト聞ク甚シキハ多大ノ彈藥ヲ使用シテ戰果殆ント見ルヘキモノナシノ如キハ折角ノ好機モ射撃ノ指揮、技能ノ拙劣又ハ劍術等武技ノ能力低キ爲臺ナシトナレルコトモ尠カラズ勿体ナキコトナリ

奇襲ニハ多クハ峻難暗夜ヲ突破シテ敵ノ備ヘサルニ乗スルヲ要スル
コト多ク機動性力敵ノ意表ニ出ル丈ノ力ナカルヘカラス然ルニ山砲、
歩兵砲力運レマシタト言フカ如キハ準備ニ訓練ニ一段ヲ要スルモ
ノナリ

又敵ヲ知ルコトノ訓練ニ就テハ將校ノ慧眼及熱誠第一ニシテ警官、
自衛團、住民ノ用法迄モ十分ニ長スヘキハ勿論之等平素ノ訓練ニハ
特ニ力ヲ致サ、ルヘカラス

要スルニ指揮ノ卓越特ニ戰術能力ノ優秀、訓練ノ精到、志氣ノ旺盛
軍紀ノ確立就中各級幹部力眞ニ夫々上官ノ企圖ニ一心トナリテ部下
ハ一体ノ身ノ動キノ如ク精練シテ始メテ其ノ成果ヲ十全ナラシムル
ヲ得ルナリ

二、我隊ノ治安工作ハ不斷ニ積極討匪ヲ行ヒ彼ヲシテ畏懼シテ「よりつ
き」得サラシムルノミナラス恐怖シテ陳ヲ窺ヒ得サラシムルト共ニ

一方大切ナルハ住民ヲ愛撫信頼セシメ其ノ匪害ニ對シ責ヲ負フテ之ヲ驅除シ警備地區ノ太平繁榮ヲ衛ルニアリ

從ツテ「今ハ奇襲カ出來ヌカラ」ナト言ヒテ討伐セヌト力躊躇スルヲ許サス即チ常ニ準備シ待チ構ヘテ攻勢ヲ取り討伐ヲ常ニ奇襲化シテ常ニ戰果ヲ最大ナラシメ以テ彼ヲシテ我武威ニ屈セシムルコト肝要ナリ

奇襲ト言フテモ一手ニ限ラス色々ノ狀況ニ於テ色々ノ手アル筈ナリ其ノ手ヲ選フハ出來得ヘキ最善ヲ決セサルヘカラス故ニ單ニ攻撃ノミナラス防禦ニ於テモ亦敵ノ意表ニ出テ、之ヲ討ツヘキナリ

三、彼ノ正成千早城ノ防禦ノ如キハ常ニ敵情特ニ其ノ企圖ヲ的確ニ判斷シテ常ニ之ヲ挫折スルヨリモ寧ロ之ニ乘シテ大イニ破ルカ如クニ盡

策實行セルヲ見ルナラン只平時ノ練兵場ノ防禦陣地ヲ占領セル大、中、小、分隊長ノ如キ大部隊内ノ一地區ノ基本的防禦位ノ考ヘニテハ折角ノ好機ヲ全ク逸シテ何ノ手柄ヲ立テ得スシテ敵ヲ逃スカ如キハ現下ノ守備勤務中ノ防禦ノ特性ヲ忘レアルモノニシテ守將（下士官上等兵ト雖）トシテ恥ツハキコトナリトス

其陣地ヲ占領シタル操典式ノ戰ニ於テモ敵ヲ全ク引キツケテ置キテ一舉ニヤツケル方法モアルハシ 夜ナトハ不意ニ照明シ或ハ勇敢ナル數名カ私カニ側背ニ出テ、一舉ニ突撃スルカ如キコトニヨリテ偉功ヲ奏セル例尠カラス夜テモ警テモ常ニ奇襲ノ方法ハアルナリ況ンヤ長ク同一地ニアリテ警官、路警、自衛團、民衆等ヲ訓練シ置キ乍ラ之カ一ツノ役ニモ立タスシテ只守地ヲ恐レ乍ラ守リタルニ過キサカ如キハ益々恥ツハキコトナリ而モ敵ノ退却方向モ兵力モ分ラヌトハ如何ニ夜

暗トハ庭「のんびり」シタコトナリ

之平素ヨリ謀報能力ノ向上ノ熱足ラス敵情ノ判斷ノ力ナク如何ニシテ
敵ヲ撃タンカノ地形狀況ノ研究モセス又計畫モ準備モナキヲ以テナリ
又常ニ全員ヲ以テ陣地ヲ守備スルト言フ素人考ヘノミニ陷リテ最小限
ニ守備シ最大限ノ機動豫備ヲ有セントスル攻勢ノ考ヘナキ爲ナリ城壁
内ヲ守備スル部隊力敵ノ襲來ニ對シテ何等出撃ノ計畫ナキカ如キ城壁
ヨリ繩梯子ヲ以テナル練習モシアラサルカ如キハ問題ニナラヌ怠慢ナ
リ

小部隊派軍奮闘戦ト大部隊内ノ一部ノ戦トノ差異ノ考ヘリナキカ如キ
ハ今日ニ於テ雖モ犯サヌコト、ハ思フモヨクヨク考フヘシ

元來今日ニ於テ敵カラ不意ニ夜襲セラル、カ如キハ全く以テ警備組織
不完全ニシテ且ツ其訓練ニ缺キ又活用ヲ忘レアルモノニシテ攻勢的ノ

準備ヲセス又平素宜操行軍モ何モセス只守備地ニ「居る守
勢ノ愚ニ陷レル爲ナリ」

「先手ニ常ニ考ヘテ走ラセテ備ヘテ完フスヘキコト
今日分散配置ニテ治安ニ任ス之夏夕「蜘蛛が巣を張りて餌を待つが如
きものならざるへからす」

吾等今日ノ仕事ハ何ト申シテモ結局「戦ニ勝ツ」コトカ第一要件中ノ
第一ナリ住民ヲ宜撫シ立派ナル國ヲ建ツル間ニ一方勝ツ爲ニ皇威ヲ十
全ニ發揮スルノ準備ニ拔リアルヘカラス此ノ間住民ヲ味方化シテ不離
タラシムルハ即チ之「敵のげりら戦法」ヲシテ不可能ナラシムル根本

問題ニシテ違ニ「敵をげりら攻めする方法」ノ基礎條件ナリ
此ノ民心ヲ我ニ協力化セシメ得テ始メテ我ハ常ニ微小ヲ以テ大敵ヲ撃
滅シ得ルナリ又斯クセサルヘカラサルナリ」チ萬事勝ツコトニ常ニ努

力ヲ惜ムヘカラス日夜心魂ヲ勵カシムヘシ

初年兵教育モ亦此ノ熱ニヨルハク宣撫モ行軍モ萬事此ノ心ヨリスヘク
防備ヲ強化スル目的ハ守兵ヲ少クシテ攻勢ヲ以テ勝ツ兵ヲ増スニアリ
警察、自衛團ノ教育亦然リ、萬事萬端勝ツ爲ニ心ヲ配リテ之ヲ仕真化
セサルヘカラス之カ今日ノ御奉公ナリ

此ノ熱ナクシテ毎日戰場ニ銃後ノ大ナル後援ヲ得アルコトヲ忘レテ日
ヲ送ランカ不忠此ノ上ナキコトナリ

斯クシテ始メテ敵ノ意表ニ出テ、大勝ヲ博シ得ルナリ勝ツテ、奇襲ノ
手ハ自然ニ湧キ出ツルナリ

此ノ考ハニテ典令ヲ讀ムヘシ 現實ノ我身ノ仕事ヲ考ヘテ讀メハ典令
カ毒ニナラス形式ノ愚ニ陷ラサルヘシ

五、某隊テハ少尉以下二、三十名ノ守備隊テモ隊長以下一心トナリ之ヲヤツテ居ルノニ某隊ハ中隊長カ主力ヲ提ケテ居リ乍ラ何モヤラヌ「やつてもへた」ト言フハ全ク將校以下ノ心掛ケカ甚タ惡シキナリ

隊長以下支那語一言言ヘヌ様テハ所謂土人ニ對スル忌ムヘキ劣等優越感ニ觸セラレテ大御心ノ程ヲ恐察セヌ軍式ナルニ依ルモノナリ

皇化ノ勸キヲ爲シ得サルナリ 皇化ノ勸キトハ彼ヲシテ「親しましむる」仁義ノ實行ナリ之ハ隊長ノ宣傳丈ニテハ不可ナリ

隊ノ兵一人々々カ無言ノ間ニ至誠ノ心カ彼等ニ通スルナリ兵ニ油斷サセテハナラヌ乍併油斷ナク彼等ヲシテ「住民ニ親しましむる」ノ道ヲ中隊長以下カ能ク兵ニ仕込ミ置クト置カサルトカ大ナル差異ヲ生スルナリ 即チ民心把握力ノ強化ハ今日軍ノ大問題ナリ

下士官兵力思ヒモヨラヌ不軍紀ナト勸ク様テハ如何ナル宣撫品ヲ遣ツ

テモ水泡トナリ隊長カ何程長講舌ヲ盡シテモ何ノ效モナキモノナリ
此ノ様ナ部隊ハ常ニ匪情カアカラス敵ヨリ思フ様ニ手ニ掛ケラレテ敵
ハ強イト思ヒ居ルナリ敵ヲ弱カラシムルハ宣撫品カナクテハナラヌコ
ト計リ考ヘテ居ル舊式觀念ノ無能軍隊ナレハナリ 宣撫品モ大切ナリ
乍併方法手段ヲ講スル努力更ニ必要ナリ

六、敵ノ疲込ニ乗シ弱點ニ乗スルヲ得ハ誠ニ妙ナリ乍併此ノ方法ニ據リ得
サルトキハ更ニ我カ動キヲ早クシテ敵ノ意表ニ先廻リシ或ハ其ノ油
ニ乗シ更ニ我術ヲ以テ敵ヲ誘致又ハ抑留シテ之ヲ討タサルハカラス
某隊カ自衛團等ヲ「おとり」ニ用ヒテ之ニ敵カ相手トナリ居ル間ニ其
ノ側背又ハ退路ニ繞リテ攻メ立テルカ如キ好戰例ヲ掲ゲアリタルカ之
ハ誠ニ妙案ナリ此ノ位ニ我カ術ヲ旨ク施ス程「戰術の手」カ上手ニ
ラサルハカラス 又此ノ様ナ手カ使ヒ得ル程附近ノ警察、自衛團、在

民ヲ思フカ儘ニ味方付ケ又ハ働カシムル様ニ平素ヨリ「手なづけ」サルヘカラス（此ノ點ハ一二〇師ノ遣口ナトヨク研究スルノ要アリ）

七、五月頃懷安巡視ノ際實施シタル蝦蟇戰法ヲ述フ

巡視ニ際シテ歩兵約一中隊、山砲一門、工兵一小隊ヲシテ護衛セシム當時懷安ニハ一中隊守備シアリ巡視ト言フコトニテ誰モ討伐スルコトハ考ヘ居ラス勿論縣長、警察モ知ラス從ツテ如何ニ内通者アリテモ匪賊ニハ通シ得サリシナラン當時ハ斯克ノ如キ策ヲ以テ敵ノ不意ニ乘スルノ必要ヲ感シタルナリ

先ツ途中柴溝堡、懷安中間ノ峠ニP小隊ト歩兵若干ヲ殘シ道路補修ヲ行ハシム其ノ自動直モ共ニ懷安ニ入ル之ニヨリテ夜晚クナリテモ歸還路ノ安全ヲ計リタルナリ

懷安到着後直チニ強地方向ニ一小隊ヲ派遣シ正午迄ニ道路匪情ヲ偵察

シテ歸ラシム

護衛隊ノ主力ニ山砲ヲ附シテ自動車ニテ舊懷安間ノ道路匪情ヲ搜索シ
自動車ヲ歸懷セシメ部隊ハ北方ニ移動シテ懷安―太平庄間新道ニ移ラ
シム此ノ自動車ハ午後一時迄ニ懷安ニ歸ラシム正午前此ノ方向ニ砲
ヲ開ク

正午懷安部隊ノ一小隊ヲ自動車ニヨリテ此ノ轉進、掩護匪情搜索及
路偵察ノ爲太―懷新道白頭戸附近ニ至ラシム

午後二時自動車全部ヲ用ヒテ懷安部隊ノ主力ヲ擧ケテ之ニ追及ス

途中黃家窪ニ於テ先遣小隊ニ同行セシメタル自衛團員驢馬ニ乗り急使

トナリテ筆記報告ヲ持テ歸ルニ會ス

之ニヨリテ「先遣小隊ハ近ク敵ト相對スルコト及護衛隊主力ハ舊懷安ヨ
リ漸次ニ縣家莊ニ向ヒテ轉進中ナルコト」ヲ知ル

直ニ前面ノ敵ヲ攻撃スルコトニ決シ先ツ先遣小隊ノ位置ニ進出ス此ノ
時前面ニ猛烈ナル銃聲起ル直チニ自動車ヲ返シテ轉進セル山砲ヲ招致
シ且孫家庄ニ到着セル護衛隊ノ主力ヲシテ先ツ我右側背ニ騎馬迂回ス
ル敵ヲ擊退セシム

山砲ヲ迎フル爲自動車砂塵ヲ揚ケテ後退スルヤ敵ハ我退却ト思ヒテ猛
進ス此ノ際我火力ヲ至盛ニシテ大イニ之ヲ打ツ山砲到着シテ盛ニ之ヲ
擊ツ

斯クシテ我右側背ニ繞回セル敵ハ頓挫セルヲ以テ護衛隊ヲシテ一分隊
ヲ殘シ主力ヲ我左側高地ニ向ヒ攻撃前進ヲ命ス

此ノ部隊ハ遠ク高キ方ヨリ攻撃前進ス

機ヲ計ツテ前線攻撃前進シ山砲ハ左側高地ノ敵ヲ猛射ス茲ニ於テ敵ハ
崩レテ退却ス山砲ハ之ヲ追撃ス

其ノ狀況夫圖ノ如シ

之ハ敵カ益ク我手並ヲ知ラズシテ大イニ志氣旺盛ナリシ頃ナルカ故ニ
小數ノ先遣隊ニ對シテ生意氣ニモ攻勢ヲ取り來レルナリ

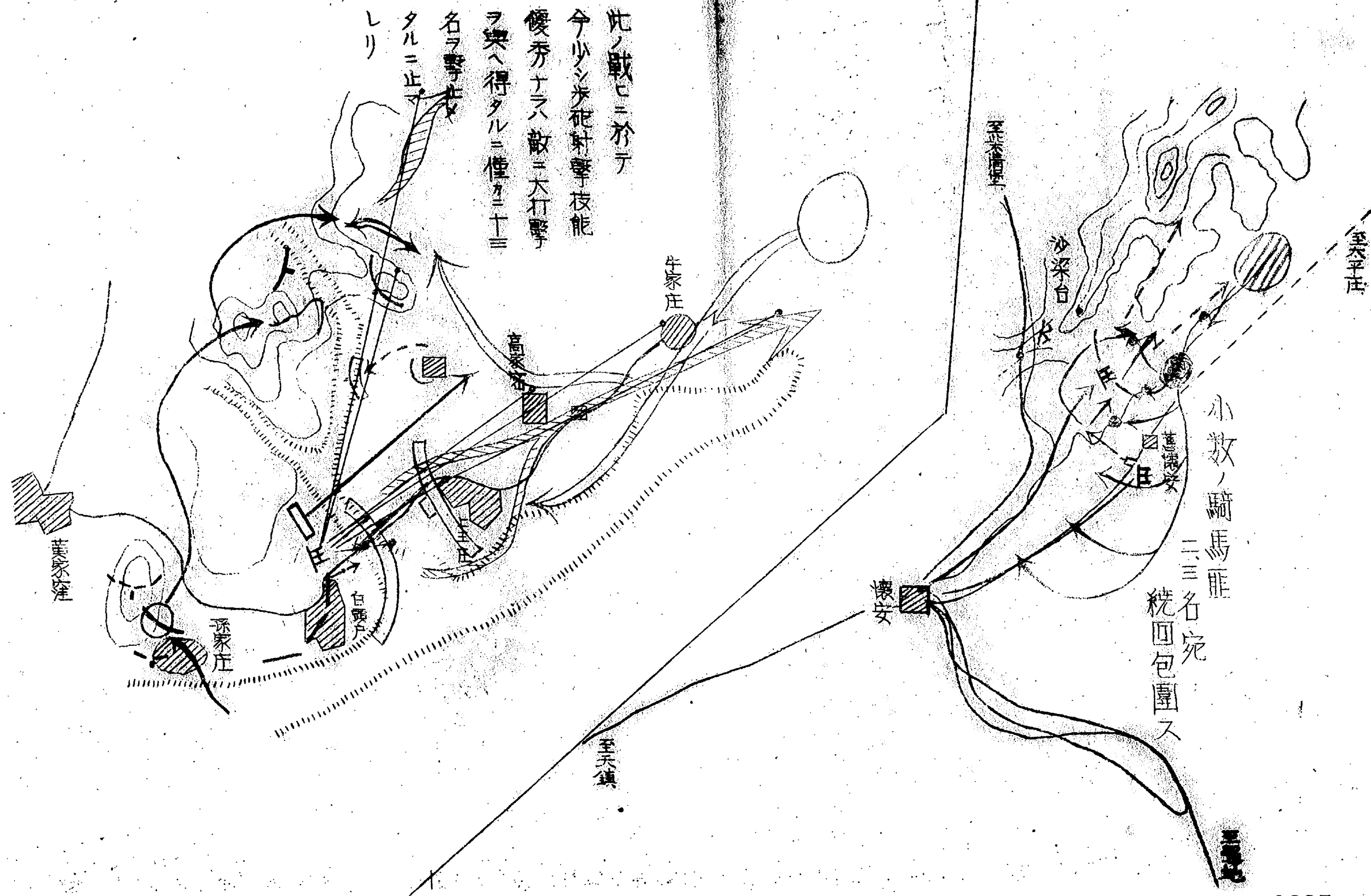
特ニ砲兵ヲ迎フル爲ニ自動車ヲ返シタルニ彼ハ我ヲ退却ト判斷セシカ
如ク大舉突撃モセン計リニ來リシハ却ツテ我戰果ヲ大ナラシムルニ誠
ニ有利ナリキ

蝦テ鋼釣ル戰法ニ彼引カ、リタルナリ

八、安武隊カ今夏千五百米匍匐前進シ地隙ヲ潛行シテ不意ヲ襲ヒシ例モア
リ又軍遣堡ノ守備隊ヨリ上等兵力ヲ指揮シテ地隙づたいニ狩獵ノ如
ク匪賊ニ近ツキテ副官ヲ城壁ヨリ撃チ斃シ更ニ彼驚キ小笛ヲ以テ退却
合圖ヲ知リテ其退路ニ潛行先廻リシテ又二、三名ヲ射殺シ馬迄分捕
シ話アリ

ハシ
要スルニ奇襲ノ爲ニハ張り切ツタル攻勢ノ準備ト果斷決行力トヲ要ス
ルコト桶狭間ノ戰例ノ如シ諸官ハ其他古戰例ヲ能ク々々味ヒテ活用ス

0634



0635